プロフィール　（出演順・敬称略）　※プロフィールは御本人によるものです。

【河川管理者の報告】

高橋　雅（たかはし　まさし）

1988 年（昭和 63 年）1 月 16 日長野県須坂市生れ。信州大学工学部社会開発工学科卒業。大学卒業後、長野県土木部に就職し、木曽建設事務所を経て、現在の下伊那南部建設事務所へ。一級河川遠山川、飯田市南信濃和田地区において地域住民と協働で多自然川づくりに取り組んでいる。

【基調講演】

佐々木　葉（ささき　よう）

1961 年（昭和 36 年）　鎌倉市生まれ。早稲田大学創造理工学部社会環境科教授。早稲田大学建築学科卒業、東京工業大学大学院修了。３つの大学などを経て 2003 年度より現職。専門は景観論、土木構造物のデザイン論。長野県上田市丸子の歴史的トラスを再生した「りんどう橋」のデザインを担当、関係論文で土木学会論文賞受賞。主な共著に『景観用語事典』、『風景とローカル・ガバナンス』などがある。20 年近くまちづくりに関わっている岐阜県郡上市八幡町を拠点とした NPO 郡上八幡水の学校副理事長。歳を重ねるごとに水をめぐるまちづくりの奥深さを感じている。

島谷　幸宏（しまたに　ゆきひろ）

1955 年（昭和 30 年）山口県生まれ。建設省土木研究所、九州地方整備局の武雄河川事務所長を経て九州大学　教授。専門は河川工学、河川環境。

幅広く河川に係わってきたが、最近は、住民参加の川づくり、自然再生、川の風景デザイン、流域全体での治水などをテーマに精力的に取り組んでいる。性格は、陽気で前向き、かつ大雑把。趣味は川で調査をすること、おいしいものを食べること。これまでに関係した主な河川をあげると埼玉県黒目川（桜並木でもめました）、神奈川県境川（蛇行と河畔林でもめました）、多摩川宿河原堰（美しいデザインでしょう）、多摩川河原の復元、霞ヶ浦や宍道湖の湖岸の再生、佐賀県松浦川アザメの瀬湿地再生、宮崎県北川激特事業、宮崎県大淀川河畔地区景観整備など多数。著書に水辺空間の魅力と創造（共著）、河川風景デザイン、河川の自然環境の保全と復元、エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化,私たちの「いい川・いい川づくり」最前線（共著）など

【河川景観のつくり方】

百武　ひろ子（ひゃくたけ　ひろこ）

濁った水面に屋形船の灯りがにじむ隅田川のほとりで幼少期を送りました。当地飯島町で昨年行われた、「“いい川づくり”技術研修会」でコーディネータを務められた吉村伸一さんに「川」の世界へと導かれ放置されたまま今ものんびり浸かっています。全国の川に潜む無尽蔵の豊かさを市民の感性と知恵という桶で汲み出し次世代へつないでいきたいと思っています。㈲プロセスデザイン研究所代表、ＮＰＯ法人合意形成マネジメント協会理事長、一級建築士、博士（工学)。

宮本　善和（みやもと　よしかず）

高度成長の最盛期に京都市で生を受ける。少年の頃のふるさとの川は、上流からの排水で赤、青、黒、黄色と色とりどりの水が流れ、「良い子は川で遊ばない」と指導された。川にはフェンスが張り巡らされて遊べずに日本庭園の流れに興じた。生き物で賑わう川をよみがえらせ、子どもを誘い、大人のいいおつきあいを紡いでいきたい♪　そんな想いが行動の原点。移り住んだ柳瀬川では、市民プランを描いていい川づくりの合意形成を促してきた。最近は、サンゴ礁再生に向けた陸と川と海のいい関係づくりや、食と旅による水の里の活性化にも取り組む。日頃は環境計画、住民参加のコンサルタント。江戸川大学非常勤講師。博士（工学)。技術士（総合技術監理・建設部門・環境部門)。

中島　一郎（なかじま　いちろう）

昭和 30 年、横浜で産まれ、伊豆で育つ。平成 8 年より伊那谷に定住。昭和 54 年に建設省中部地方建設局(現在の国土交通省中部地方整備局)に入局後、35 年間、洪水・土砂災害防止に関わる。ハード・ソフト対策を担当。二つのアルプスの間を流れる天竜川の魅力の再発見と防災との係わりが、地元の賑わいや防災力の向上に活かされるものと考えている。

山岸　勧（やまぎし　すすむ）

1956 年（昭和 31 年）長野市生まれ。信州大学工学部土木工学科卒業後、昭和５５年に長野県土木部に入庁。以来、県内各地域の建設現場での経験と本庁勤務を経て、現在飯田建設事務所長として南信地域のインフラ整備に関わる。河川整備関係では、多自然型川づくりが叫ばれ始めた 1990 年代より大北地域の農具川や上小地域の求女川の改修を経験。特に求女川では現地産の巨石を活用し、自然景観にマッチした河川整備に取り組んだ。

福澤　浩（ふくざわ　ひろし）

1960 年（昭和 35 年）長野県駒ヶ根市東伊那生まれ。天竜川を見下ろす河岸段丘の羽淵で育ち、子どもの頃は祖父に背負われて天竜川の中洲にあった畑によく通う。小学校時代は、帰宅するとランドセルを玄関に放り投げ、風呂を焚きつけ釣竿を担いで天竜川へ。中学時代は足で高校時代は単車で、天竜川の堤防を走り回る生活を送る。アユとザザムシの栄養でこんなに大きくなったと感じている。平成 12 年より天竜川ゆめ会議に参加。現在、代表理事。